

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2010-207402

(P2010-207402A)

(43) 公開日 平成22年9月24日(2010.9.24)

(51) Int.Cl.
A 4 7 J 43/24 (2006.01)F 1
A 4 7 J 43/24テーマコード (参考)
4 B 0 5 3

審査請求 有 請求項の数 6 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2009-56788 (P2009-56788)
(22) 出願日 平成21年3月10日 (2009.3.10)(71) 出願人 509069652
大吉 悦夫
大阪府大阪市都島区友漕町 1-5-8 ベル
パークシティ J 棟 1408 号(71) 出願人 509070278
藤田 賢一
大阪市都島区友漕町 1-5-8 ベルパーク
シティ J 棟 1408 号(74) 代理人 100087767
弁理士 西川 恵清(74) 代理人 100085604
弁理士 森 厚夫(74) 代理人 100155745
弁理士 水尻 勝久

最終頁に続く

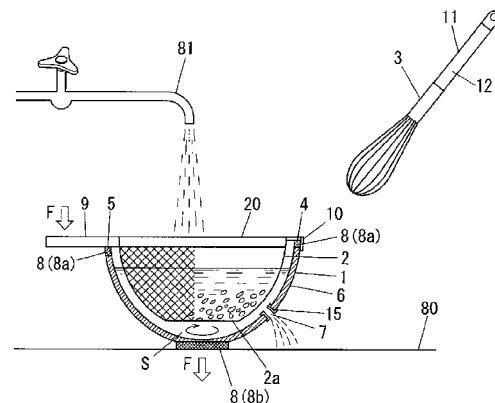
(54) 【発明の名称】 米研ぎ器

(57) 【要約】

【課題】手を水につけることのない簡単な作業によって効率的に米研ぎを行うことができ、しかも構成がシンプルであって収納が容易な米研ぎ器を提案する。

【解決手段】本発明を、碗状容器 1 内に、米を溜め置くことのできるザル状容器 2 を配置させ、碗状容器 1 内に水を注入したうえで攪拌具 3 を用いて米研ぎを行う米研ぎ器とする。ザル状容器 2 の上縁部 20 には、使用者が片手で把持することのできる把持部 9 と、碗状容器 1 の上縁部 4 に係止する凸片 10 とを設ける。ザル状容器 2 の底 2a には、全面にわたって多数の通水孔を設ける。碗状容器 1 の上縁部 4 には、ザル状容器 2 の把持部 9 が嵌合する凹溝 5 を設け、碗状容器 1 の側壁部 6 には、排水孔 7 を設ける。

【選択図】 図 1



- 1 碗状容器
- 2 ザル状容器
- 3 攪拌具
- 4 上縁部
- 5 凹溝
- 6 側壁部
- 7 排水孔
- 9 把持部
- 10 凸片

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

梔状容器内に、米を溜め置くことのできるザル状容器を配置させ、梔状容器内に水を注入したうえで攪拌具を用いて米研ぎを行う米研ぎ器であって、ザル状容器の上縁部には、使用者が片手で把持することのできる把持部と、梔状容器の上縁部に係止する凸片とを設け、ザル状容器の底には、その全面にわたって多数の通水孔を設け、梔状容器の上縁部には、ザル状容器の把持部が嵌合する凹溝を設け、梔状容器の側壁部には、排水孔を設けることを特徴とする米研ぎ器。

【請求項 2】

梔状容器の排水孔は、ザル状容器を配置したときに該ザル状容器の底よりも上方となる位置に設けたものであることを特徴とする請求項 1 に記載の米研ぎ器。

10

【請求項 3】

ザル状容器の凸片は、該ザル状容器の把持部の中心軸を挟んだ線対称位置に、対を成すように設けたものであることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の米研ぎ器。

【請求項 4】

ザル状容器の凹溝に、滑り止めのゴム部材を配したことを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれか一項に記載の米研ぎ器。

【請求項 5】

ザル状容器の凹溝を含む上縁部全体に、滑り止めのゴム部材を配したことを特徴とする請求項 1 ～ 3 のいずれか一項に記載の米研ぎ器。

20

【請求項 6】

梔状容器の外底部に、滑り止めのゴム部材を配したことを特徴とする請求項 1 ～ 5 のいずれか一項に記載の米研ぎ器。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、手を濡らさずに簡単に米研ぎを行うことのできる米研ぎ器に関する。

【背景技術】

30

【0002】

家庭内における米研ぎ作業は、水の中に指先を入れ、水中で米をかき混ぜながら行うことが一般的である。しかし、このような米研ぎ作業は、あかぎれ等の手荒れの原因ともなる。また、特に女性は指先にネイルアートを施していることも多く、手での米研ぎ作業を行う際に、ネイルアートに損傷を生じやすいという問題がある。

【0003】

上記問題を解消するものとして、特許文献 1 には、図 4 に示すような米研ぎ器が提案されている。この米研ぎ器は、梔状容器 50 内に、米を溜め置くことのできるザル状容器 60 を配置し、梔状容器 50 内に水を注入したうえで攪拌具（図示せず）を用いて米研ぎを行うものである。

40

【0004】

梔状容器 50 の底部には排水孔 51 を開口させており、該排水孔 51 を囲む位置からは筒状の突出枠 52 を上方に突出させている。ザル状容器 60 は、その底部 61 を通水不能に設けたものであり、このザル状容器 60 の底部 61 を梔状容器 50 の突出枠 52 上に載置してセットするようになっている。

【0005】

したがって、図 4 に示す従来の米研ぎ器では、米を研ぐ最中の水流や攪拌具が当たる際の衝撃によって、梔状容器 50 やザル状容器 60 が不意に動いてしまいやすいという問題がある。また、排水孔 51 からの排水を行う際には、把持部 62 を掴んでザル状容器 60 をいったん持ち上げる必要があり（図中の矢印参照）、面倒な作業が要求されるとともに

50

、持ち上げ作業の際に椀状容器 50 が滑りやすいという問題もある。さらに、攪拌具によって椀状容器 50 内の水を攪拌させるとき、ザル状容器 60 の通水不能な底部 61 近傍では水流が起きづらく、ザル状容器 60 の底に溜まる米を十分にかき混ぜにくいという問題もある。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0006】

【特許文献 1】実開昭 59-162836 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

10

【0007】

本発明は上記問題点に鑑みて発明したものであって、手を水につけることのない簡単な作業によって効率的に米研ぎを行うことができ、しかも構成がシンプルであって収納が容易なものとして提案することを、課題とする。

【課題を解決するための手段】

【0008】

上記課題を解決するために本発明を、椀状容器 1 内に、米を溜め置くことのできるザル状容器 2 を配置させ、椀状容器 1 内に水を注入したうえで攪拌具 3 を用いて米研ぎを行う米研ぎ器とする。ザル状容器 2 の上縁部 20 には、使用者が片手で把持することのできる把持部 9 と、椀状容器 1 の上縁部 4 に係止する凸片 10 とを設ける。ザル状容器 2 の底 2a には、その全面にわたって多数の通水孔を設ける。椀状容器 1 の上縁部 4 には、ザル状容器 2 の把持部 9 が嵌合する凹溝 5 を設け、椀状容器 1 の側壁部 6 には、排水孔 7 を設ける。

20

【0009】

本発明の米研ぎ器においては、ザル状容器 2 の把持部 9 を椀状容器 1 の凹溝 5 内に上方から嵌合させ、ザル状容器 2 の凸片 10 を椀状容器 1 の上縁部 4 に係止させた状態で、ザル状容器 2 内に米を供給し、椀状容器 1 内に水を注入する。使用者は把持部 9 を掴んでザル状容器 2 に対して上方から負荷 F をかけながら、攪拌具 3 によってザル状容器 2 内の米を水中で攪拌させる。

【0010】

30

この簡単な作業により、濡れたシンク底面 80 等で作業を行う場合であっても、椀状容器 1 やザル状容器 2 が不意に動いてしまうことなく安定的に米研ぎを行うことができる。しかも、構成がシンプルであるから、収納にも場所を要さない。

【0011】

また、ザル状容器 2 は、その上縁部 20 に設けた把持部 9 や凸片 10 を介して椀状容器 1 に支持させる構成であるから、ザル状容器 2 の底 2a と椀状容器 1 との間には、スペース S が確保される。このスペース S 内において生じさせた水流は、ザル状容器 2 の底 2a の全面にわたって設けた多数の通水孔を通じて、該ザル状容器 2 内の米を下方からも効率的に攪拌させる。

【0012】

40

なお、本発明の米研ぎ器において、椀状容器 1 の排水孔 7 は、ザル状容器 2 を配置したときに該ザル状容器 2 の底 2a よりも上方となる位置に設けることが好ましい。このようにすることで、ザル状容器 2 の底 2a よりも下方に形成されるスペース S 内で常に水流を形成し、ザル状容器 2 内の米を下方から攪拌することができる。

【0013】

また、本発明の米研ぎ器において、ザル状容器 2 の凸片 10 は、該ザル状容器 2 の把持部 9 の中心軸 C を挟んだ線対称位置に、対を成すように設けたものであることが好ましい。このようにすることで、ザル状容器 2 の左右揺動方向のがたつきを確実に防止することができる。

【0014】

50

また、本発明の米研ぎ器においては、米研ぎ作業中のがたつきをさらに確実に防止するために、ザル状容器 2 の凹溝 5 や、ザル状容器 2 の凹溝 5 を含む上縁部 20 全体や、さらには椀状容器 1 の外底部に、滑り止めのゴム部材 8 を配することが好ましい。

【0015】

このようにしたときには、使用者が把持部 9 にかかる負荷 F が、各ゴム部材 8 での滑り抵抗を増大させるように作用する。したがって、ザル状容器 2 や椀状容器 1 が不意に動くことがさらに確実に防止される。また、各ゴム部材 8 の弾性によって、仮に椀状容器 1 やザル状容器 2 にがたつきが生じたとしても、その際に生じる音を消すことができる。

【発明の効果】

【0016】

本発明は、手を水につけることのない簡単な作業によって効率的に米研ぎを行うことができ、しかも構成がシンプルであって収納が容易であるという効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【0017】

【図 1】 本発明の実施形態における一例の米研ぎ器の説明図である。

【図 2】 同上の米研ぎ器の椀状容器を示し、(a) は平面図、(b) は側面図である。

【図 3】 同上の米研ぎ器のザル状容器を示し、(a) は平面図、(b) は側面図である。

【図 4】 従来 of 米研ぎ器を示す側断面図である。

【発明を実施するための形態】

【0018】

本発明を添付図面に示す実施形態に基づいて説明する。

【0019】

図 1 には、本発明の実施形態における一例の米研ぎ器を示している。本発明の米研ぎ器は、半球形状を成す椀状容器 1 と、椀状容器 1 よりも小径の半球形状を成すザル状容器 2 と、片手で使用可能な攪拌具 3 とで構成される。

【0020】

図 2 に示すように、椀状容器 1 において平面視円形状を成すように形成される上縁部 4 には、その一部を凹ませた形状の凹溝 5 を設けてある。椀状容器 1 の側壁部 6 には、複数の排水孔 7 を貫通形成してある。各排水孔 7 には、鳩目等の縁取り金具 15 をかしめ固定し、椀状容器 1 が破損を生じることがないように補強を施している。

【0021】

図示例では、排水孔 7 を同一高さに 3 箇所配してあるが、排水孔 7 の数としてはこれに限定されない。つまり、排水孔 7 は、椀状容器 1 の側壁部 6 に一つ又は複数を貫通形成してあればよい。

【0022】

椀状容器 1 の外底部には、滑り止めを行うためのゴム部材 8 を固定してある。椀状容器 1 の上縁部 4 にも、凹溝 5 を含む全体に、同様の滑り止めのゴム部材 8 を固定してある。以下において、上縁部 4 側のゴム部材 8 を区別する場合には符号「8a」を付し、外底部側のゴム部材 8 を区別する場合には符号「8b」を付す。

【0023】

図 3 に示すように、ザル状容器 2 は、多数の通水孔を全面にわたって形成したものである。各通水孔の径は、米粒が通り抜けることがない程度の大きさに設けており、ザル状容器 2 内に米を溜め置くことができるようになっている。

【0024】

ザル状容器 2 の上縁部 20 からは、使用者が片手で把持可能な棒状の把持部 9 を外方に延設している。把持部 9 は、椀状容器 1 の凹溝 5 に嵌合する形状である。なお、本例では凹溝 5 にゴム部材 8a が固定してあるので、把持部 9 と凹溝 5 の形状を、ゴム部材 8a を介して嵌合するように設計している。

【0025】

さらに、ザル状容器 2 の上縁部 4 の他所からは、複数の凸片 10 を外方に延設している

10

20

30

40

50

。凸片 10 は、側面視 L 字状に屈折させたものであり、椀状容器 1 の上縁部 4 に対して上方から係止する形状になっている。なお、本例では上縁部 4 の全周にわたってゴム部材 8 a を固定してあるので、各凸片 10 は、ゴム部材 8 a を介して上縁部 4 に係止する。

【0026】

ザル状容器 2 に設けてある凸片 10 のうち両端の 2 つは、該ザル状容器 2 の把持部 9 の中心軸 C を挟んだ線対称となる位置に、対を成すように設けてある。なお、複数対の凸片 10 を線対称に配置してもよい。

【0027】

攪拌具 3 は、適宜のものが使用可能であるが、その把持部 11 には滑り止めのゴム部材 12 を配してあることが好ましい。

【0028】

上記構成から成る本発明の米研ぎ器を用いて、米研ぎ作業を行うには、椀状容器 1 内にザル状容器 2 を配置した状態において、椀状容器 1 を例えばキッチンのシンク底面 80 上に載置し、ザル状容器 2 内に米を供給する。このとき、ザル状容器 2 の把持部 9 は、椀状容器 1 の凹溝 5 内にゴム部材 8 a を介して弾性的に嵌合させる。各凸片 10 は、椀状容器 1 の上縁部 4 にゴム部材 8 a を介して弾性的に係止させる。

【0029】

椀状容器 1 の排水孔 7 は、上記のようにセットしたザル状容器 2 の底 2 a よりも上方に位置するように設けてある。

【0030】

椀状容器 1 内には、キッチンの水栓 81 を通じて上方から水を注入する。この注水により、椀状容器 1 内には、排水孔 7 と同程度またはそれよりも高い位置（つまりザル状容器 2 の底 2 a よりも高い位置）にまで水が溜まる。ここで、使用者がザル状容器 2 の把持部 9 を片手で掴んで下方へと負荷 F を加えたうえで、もう片手で攪拌具 3 を持ち、該攪拌具 3 によってザル状容器 2 内の米を水中で攪拌させ、米研ぎを行う。

【0031】

米研ぎ中の水圧や、攪拌具 3 がザル状容器 2 に当たる衝撃によって、椀状容器 1 やザル状容器 2 に対しては不意の外力が加わる。しかし、本発明の米研ぎ器では、上記のごとくザル状容器 2 の把持部 9 が椀状容器 1 の凹溝 5 内に上方からびたりと嵌合し、且つ、ザル状容器 2 の一对の凸片 10 が椀状容器 1 の上縁部 4 に上方から係止するように設けている。

【0032】

これにより、使用者が把持部 9 を掴んでザル状容器 2 に対して上方から加えた負荷 F が、把持部 9 の嵌合や、凸片 10 の係止を介して、椀状容器 1 内でのザル状容器 2 の位置を安定させるように作用する。さらに、ザル状容器 2 を通じて椀状容器 1 側に加えられた負荷 F が、椀状容器 1 のシンク底面 80 上での位置を安定させるように作用する。

【0033】

特に本例では、ザル状容器 2 の凹溝 5 を含む上縁部 4 全体と、椀状容器 1 の外底部に、共に滑り止めのゴム部材 8 を配しているため、椀状容器 1 とザル状容器 2 の位置はさらに安定化される。特にシンク底面 80 は濡れて滑りやすいが、上記各構成の組み合わせによって、安定的な米研ぎが可能になっている。

【0034】

上記ゴム部材 8 は、消音の作用も果たす。つまり、米研ぎの最中に、シンク底面 80 に対して椀状容器 1 がたつきを生じたり、椀状容器 1 内においてザル状容器 2 がたつきを生じたりしても、その際の衝撃をゴム部材 8 の弾性が緩和するので、大きな音が立たないようにしている。

【0035】

なお、ゴム部材 8 を配する箇所をザル状容器 2 の凹溝 5 だけとする構成、椀状容器 1 の外底部だけとする構成、凹溝 5 と椀状容器 1 の外底部だけとする構成等の、他の構成も適宜採用可能である。

10

20

30

40

50

【0036】

加えて、線対称の位置にある一对の凸片10の係止によって、ザル状容器2の椀状容器1に対する左右揺動は効果的に抑えられる。

【0037】

ところで、椀状容器1からの排水は、側壁部6の排水孔7から継続的に行われる。そのため、使用者は適量の水を注入しながら米研ぎを行うだけでよい。つまり、排水のために特別な操作をすることなく、ザル状容器2の把持部9に負荷Fをかけながら攪拌具3でかき回すだけで、米研ぎを最後まで行うことができる。

【0038】

さらに、ザル状容器2を所定位置にセットした状態において、椀状容器1とザル状容器2の底2aとの間にはスペースSが形成されており、米研ぎの最中、該スペースS内は常時水が貯留された状態となる。このスペースS内の水には、米研ぎ時の攪拌具3のかき回し動作によって、渦巻き方向の水流が生じる（図1中の矢印参照）。

【0039】

スペースS内で生じる渦巻き方向の水流によって、該スペースSのすぐ上方にあるザル状容器2内では、該ザル状容器2の底2aに堆積する米が下方から攪拌される。つまり、ザル状容器2の下方にスペースSを確保し、常時このスペースSよりも上方にまで水が満たされるように排水孔7の高さを設定したことで、ザル状容器2の底2aの全面に設けてある多数の通水孔を通じて、下方のスペースSから及ぼされる水流によっても米を効率的に攪拌させることが可能になっている。

【0040】

したがって、本発明の米研ぎ器によれば、手を水につけることなく、片手で把持部9を押さえながらも片手で攪拌具3をかき回すといった簡単な作業によって、がたつきなく且つ効率的に米研ぎを行うことができる。しかも、椀状容器1にザル状容器2を配置するだけのシンプルな構成であるため、安価に提供することができ、また、収納にも場所をとることがない。

【0041】

以上、本発明を添付図面に示す実施形態に基づいて説明したが、本発明は上記の各実施形態に限定されるものではなく、本発明の意図する範囲内であれば、適宜の設計変更が可能である。

【符号の説明】

【0042】

- 1 椀状容器
- 2 ザル状容器
- 3 攪拌具
- 4 上縁部
- 5 凹溝
- 6 側壁部
- 7 排水孔
- 8 ゴム部材
- 9 把持部
- 10 凸片
- C 中心軸

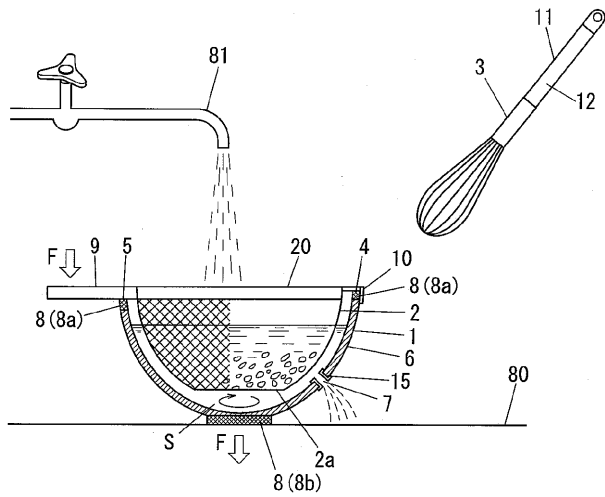
10

20

30

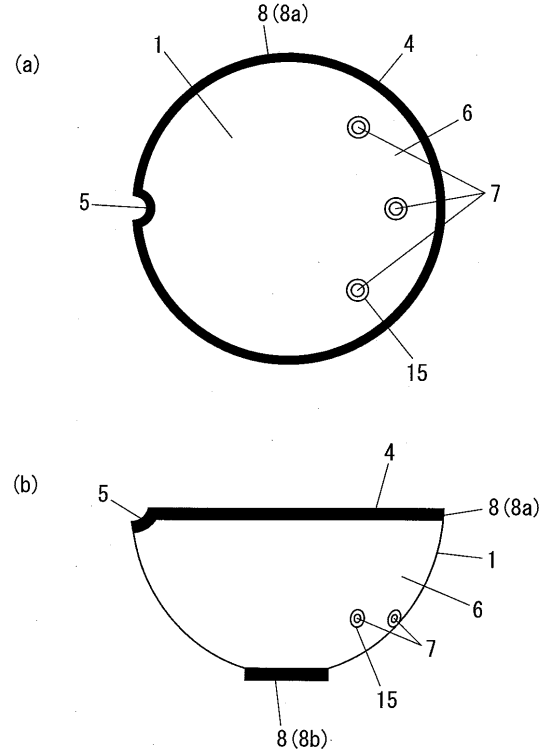
40

【図 1】

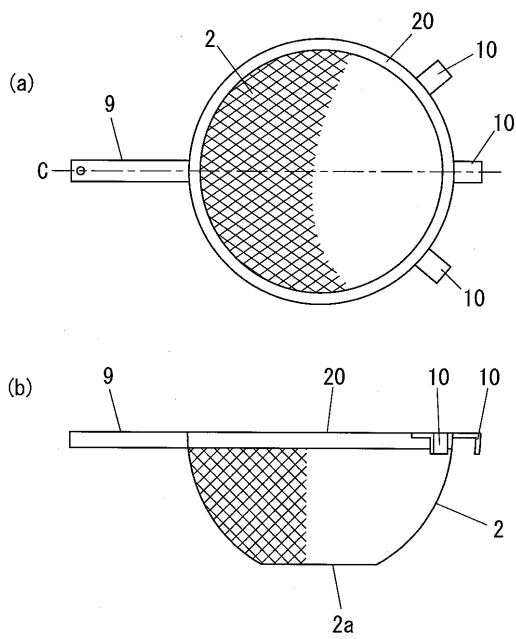


- 1 碗状容器
- 2 ザル状容器
- 3 攪拌具
- 4 上縁部
- 5 凹溝
- 6 側壁部
- 7 排水孔
- 9 把持部
- 10 凸片

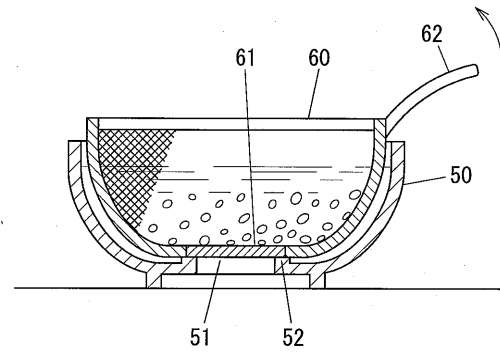
【図 2】



【図 3】



【図 4】



フロントページの続き

(74)代理人 100143465

弁理士 竹尾 由重

(74)代理人 100155756

弁理士 坂口 武

(74)代理人 100136696

弁理士 時岡 恭平

(72)発明者 大吉 悦夫

大阪市都島区友渕町 1-5-8 ベルパークシティ J 棟 1408 号

Fターム(参考) 4B053 AA03 CA11